

井上徹郎さんらに優秀賞

建九 九州 夢アイデア交流会開く



押し作品が多かった。等の理由で、該当者なしとした。

建九九州支部によるこの取り組みは「夢の

ような話を、本気でしよう」をキャッチフレーズに、毎年、広く一般からアイデアを募集しているもの。

交流会は冒頭、福島支部長が今回で18回目となる夢アイデア事業の立ち上げの経緯等を説明するとともに、「九州はじめ、日本を元気に、プライドを持ってわが町の持続可能性を高めていくこと」が目的。本日は夢のような話を本気でする機会に」とあいさつし、それぞれの発表がスタートした。

今年の夢アイデアには北海道をはじめ、東北や

関東、関西など多くの地域から60編の提案が応募。この日のプレゼンテーションでは、1次審査を通過した10編のアイデアについて、提案者から発表が行われた。また、一般の観覧は新型コロナウイルスの感染対策の一環としてWEB方式で行われ、福岡市内の会場には、審査員や建九協関係者とともに、発表者（一部はWEB参加）などが入室した。

プレゼン後の審査では、優秀賞に井上徹郎さんと永秋健さん（ともに会社員）の作品とともに、道井綾さん（養蜂家）の「ミツバチといっしょに花が咲き乱れるまちをつくりたい」Bee Flower Cityの提案と、清野聡子さん（九州大学大学院工学研究院）の「里山里海イニシアティブー生物多様性を活かす伝統を未来へ」を選定した。

講評では、各審査委員が「広い地域から多くの提案が寄せられた。大変すばらしい」「身近にある素材を基に、観察力や発想力を発揮していた」等と評価。一方で、最優秀賞の該当者なしに終わった今回の作品群について「可能性が広がりつつなアイデアもあったが、さらなる広がりや、もう一押しがほしい」とより一層、人を驚かせ、ワクワクするような提案を」等の感想も聞かれた。

（二社）建設コンサルタンツ協会九州支部（福島宏治支部長）は5日、福岡市内で「夢アイデア交流会2020」を開催した。写真。交流会では1次審査を通過した提案者らが、自らの夢アイデアについてプレゼンテーションし、審査の結果、優秀賞に井上徹郎さんらによる「QR行動」などの作品が選ばれた。最優秀賞は、もう一